



平成14年5月30日
日本原子力発電株式会社

敦賀3, 4号機増設計画に係るお願い
並びに1号機の運転停止時期に係る方針の報告について

本日、当社社長が福井県知事殿並びに福井県議会議長殿を訪問し、敦賀発電所3, 4号機の増設計画につきまして、福井県の原子力3原則（「安全性の確保」、「住民の理解と同意」、「恒久的福祉の実現」）を踏まえた当社の取組み状況などをご説明させていただき、敦賀発電所3, 4号機増設計画へのご理解をお願いいたしました。

また、当社は、敦賀発電所1号機（沸騰水型、定格出力35万7千キロワット）の運転停止時期について、平成11年以来、社内に検討委員会を設置し、技術的、経済的観点、地域経済への影響、地球温暖化対策、エネルギーセキュリティーなど、様々な視点から検討を進めてまいりましたが、その結果、地元情勢、敦賀発電所3, 4号機の増設計画の進捗を踏まえ、敦賀発電所1号機の運転停止時期については、別紙のとおり平成22年とする方針といたしましたので、併せてご報告させていただきました。

当社といたしましては、今後とも発電所の運営並びに増設計画の推進にあたり、県民の皆様から更なる信頼と安心を頂けるよう、安全・安定運転の継続に努めるとともに、廃止措置に係る諸課題の解決に向け、最大限の努力を尽くして参る所存です。

なお、本日、当社社長が敦賀市長殿並びに敦賀市議会議長殿を訪問し、同様のお願い、ご報告を行う予定です。

以 上

別紙 敦賀発電所1号機の運転停止時期について

敦賀発電所 1 号機の運転停止時期について

敦賀発電所 1 号機（敦賀 1 号機）は、昭和 45 年以来、およそ 30 年間の運転を続けております。この間、沸騰水型軽水炉の初号機として、即ち「BWRのパイオニア」として、安全安定運転に努め、幾つかのトラブルを経験したものの、地元の皆さまのご理解を得ながら、建設・運転経験の国内 BWR への反映、人材育成への寄与等、数々の使命を果たしてきました。

一方当社は、敦賀 1 号機の運転方針について平成 11 年 5 月に、今後 10 年間程度十分な安全確保の基に運転を継続すること、また、停止時期について具体的な検討を開始することをご報告いたしました。これに基づき、同年 12 月に社内に検討委員会を設置し、以来、「停止時期」について、様々な視点から検討を進めて参りました。

その検討の結果として、

- 1) 技術的には、長期保全計画を着実に実施し、10 年毎の見直しを行っていけば、安全性・健全性を十分に確保しつつ 60 年間の運転が可能との見通し、
- 2) 経済性については、敦賀 1 号機が海外から輸入した軽水炉の初号機であり、かつ出力規模が小さいことから、将来的にも大型の軽水炉に比べ、電力自由化の状況下、コスト競争力の面からは不利であるとの評価、
- 3) 地元経済については、敦賀 1 号機の停止による雇用、発注面での影響は敦賀 3, 4 号機の具体化により避けられる見通し、
- 4) 地球温暖化対策及びエネルギーセキュリティに対する運転停止の影響については、平成 14 年度供給計画に基づき再評価したところ、ともに僅少であるとの評価、が得られました。

この検討と併行して、当社は敦賀 3, 4 号機の増設計画につきまして地元の皆様のご理解を得るべく理解促進に努めて参りましたが、本年 2 月には経済産業省主催の公開ヒヤリングを終え、増設計画についてのご理解が得られつつあると考えております。現在、国の電源開発基本計画への組入れに向け、関係機関のご尽力を頂いているところであります。

当社としては、以上に述べた社内の検討結果、地元情勢、敦賀 3, 4 号機の増設計画の進捗を踏まえ、総合的に経営判断した結果、敦賀 1 号機の運転停止時期については平成 22 年とする方針と致しました。今後、これに基づき、地元の皆さま並びに関係各位のご理解を得ながら、諸課題の解決に最大限の努力を尽くして参ります。

以 上